

市長と語る タウンミーティング
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成24年6月30日（土） 午後5時～6時40分
会 場 八丁分館（三角町会）
天 気 晴れ

参加者 13人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

- ◆さきほどの説明で災害時の断水想定人口は47,000人弱ということであるが、その根拠は。
- ☆これまでは国の基準に基づくものだった。今後、国も見直しを予定している。埼玉県でも地震被害想定調査を行う予定であり、今年の暮れか来年早々にそれがおりにくる予定なので、その結果により再度県においても見直しがされる予定。3.11の時の放射能の関係もあり、現在、ペットボトルの水も相当数確保している。
- ◆災害協定はとても良いことだと思うが、今後の災害状況によっては放射能汚染などかなり広範囲に及ぶことが想定され、避難する範囲も県外等の状況もあり得るだろう。もし、埼玉に住めなくなったとした時の協定市との関係は。
- ☆協定上今のような話は明文化していないが、実際は福島の場合から見ても多くの人々が避難し移り住んでいる状況が伺える。現実的には、おおいに想定出来ることである。
- ◆実際に避難した場合において、行政との接点を確保することが重要であると思う。
- ☆具体的な協定内容にはなっていないが、考えていく必要はある。協定を締結しているのはいずれも県外であり、栃木県日光市、山梨県甲斐市、長野県飯田市となっている。今後は更に群馬県の安中市とも協定を結んでいく予定である。それと、私がメンバーになっている全国青年市長会に入っている自治体とも相互に支援し合っていけるものと思う。
- ◆本庁舎は新築せずに耐震補強をして一部改築していくという話であるが、近年中にやはり手狭なので新築しなければならないということにならないか。その辺が心配である。更に、近いうちに富士見、三芳とも再合併論が浮上し、庁舎の問題が影響することもあるのでは。
- ☆支所の建て替えについて議論した中でも、ふじみ野市としての中心部に新たな新庁舎が必要なのではという意見があった。しかし、新たな土地を探し調達しそこに新築する期間を考えると、特例債の関係もあり不可能であるとの結論に至った。確かにリフォームより新築の方がコスト的に云々という話もあるが、

実際には新築は32億もの費用を要する。実際のリフォームにはもう少し手をかけたい面もあるが、耐震補強や増築等の建設で凌いで行くことに決めた。それから、近隣市との再合併論については、ここで合併特例債期限が5年延長されることが決定したので、ここ10年以内の合併話は出ないと思う。

3.11の際にこの地域は停電しなかったと思うが、ふじみ野駅近くの地域では停電したことにより、マンションの水が上げられずとても困ったとのこと。その影響か、防災組織を作るという意識が高まっているようである。また、このタウンミーティングにおじゃますると私は必ずお話しているが、皆さんはどんな状況においても一目散に指定されている避難所を目指す必要はないということである。災害はいつ起こるかわからない。季節によっても時間帯によってもその状況に応じた安全の確保策があると思うので、まず、皆さんには自分の身の安全を確保できる場所に移り、身を守っていただきたい。その安全を確保する場所は必ずしも避難所であるとは限らないので、普段からどんな場所が安全なのかについて、意識を高めておいてもらいたい。このことを、地域の会合の機会を利用して伝えていって欲しい。

- ◆もともとこの地域の道路は狭いのに、スーパーなどが数多く進出したために道路が渋滞し、その影響で裏道を飛ばして走る車が増えている。非常に危険な状況である。歩道も満足に確保されていないので、交通事故の原因となり大きな課題と言える。何十年も前から全然変わっておらず、大井地域はガードレールも少ないと思う。市内全域でガードレール等の措置をするとかなり大きな費用がかかることは理解できるので、行政として違う方策を考えられないか。例えば、三ヶ島街道は一方通行にして半分は歩道にするとか。
- ☆この地域の課題が長年に渡る懸案事項であることは十分に承知しており、本日のタウンミーティングに臨むに当たり、いろいろ私も勉強してきたつもりである。今日のテーマとしては防災が中心ではあるが、地域の課題についても是非生の声を聴かせていただきたい。
- ◆要援護者の支援について、あの名簿自体の具体的な活用方法がよくわからない。
- ☆個人情報の保護条例というものがあり、ハードルが高くなってしまっている。非常に活用しにくい面があるのは事実である。ご本人の承諾無くしては機能しない。
- ◆町会長や民生委員にはその情報が来ているが、それを具体的にどう活用していくかが問題。町会長と民生委員だけではどうしようもない。
- ☆手上げ方式により今現在512人の方が登録されているが、この方たちの具体的な個別支援計画を立てなければならない中、1人につき3名の支援者の確保ができているのが、現在半分程度の250人ぐらいしかいない。今後の具体的な活用に向けて、現在、鋭意努力している状況である。
- ◆町会の役員でマップを作り、この地域において具体的な支援ができるよう考え工夫している。玄関先に分かり易い表示をするなど、安否確認に役立つ方法も

兼ねていろいろな方法を考えている。

☆市は一切個人情報を開示しないのか。

◆民生委員をやっているが、居住者カードなど作らなくていい自治体があることを知った。何故ふじみ野市は個人情報を開示できないのか。実際やっている自治体もあるのだから何とかして欲しい。健全な家庭からは居住者カードが出てくるが、本当に知りたい特殊な事情のある家庭からは出てこないのが困っている。

☆今現在はできない状況である。役所内においても収納状況等を収税課以外の課の仕事で調べなくてはならない場合、目的外利用ということで審議会に諮らなければならない状況であるが、他市の対応方法等併せて調べ対応について検討したい。

◆地域の中で給水ポンプで水を上げているところがあるが、いざという時、各家庭に飲み水を供給する手段として考えられないか。有効活用になると思うが。それとは別に、その場所が交通量の多い公道の裏道になっていて狭い道路でもあるので、大変危険である。清瀬の方でやっている方法で道路に山を作ってスピードを抑えるやり方をしているので、同じようにはできないか。そんなに費用はかからないのでは。

☆先ほど出ていた一方通行にするという手段は、かえってスピードが増してしまう恐れがあるため、道路に凹凸をつくるなどについて調べてみたい。

◆仮設住宅を造る必要が出た場合、各避難所になっている小中学校等になるのか。

☆学校については、通常の状態に戻すのが先決となるため、恐らくそれはあり得ないと思う。民地を借りるなどの手段になろうかと考える。

◆仮設住宅に対する市の支援内容は。

☆今現在は想定出来る最大の範囲を盛り込んだ防災計画の見直しが先決であるため、仮設住宅に関する内容は考えていない。

◆三角小学校はずっと以前から非常に汚い。長年ずっと変わらない。

☆今年設計を行い、H25年度、H26年度で大規模改修工事を行っていく。

◆近辺に新しいマンションが建設されてもあの小学校を見ると入居契約を取りやめる人が多いらしい。民間開発とともに行政は取り組む必要があるのではないか。学校の整備はインフラ整備の一貫である。

☆これまで合併前から、学校には手を着けられずにきたが、私としてはそこに切り込んでいきたいと考えており、特例債を利用しスピード感を持って対応しているつもりである。2か年かけて整備するのは、児童に負担をかけないように夏休みや春休みを利用するためである。

◆インフラ整備の遅れが、すべてこの地域の不満に繋がっている。

☆学校問題については、学区の編成の面でももう少し配慮が必要であったと思う。東台小学校の児童数は建設時には既にピークを下回っていた。お役所仕事と言われぬよう精一杯取り組んでいきたい。

- ◆何十年とこの地域に住んでいるが、一つもこの地域について改善が図られないままである。
- ☆雨水関連の対策について、今年具体的に取り組ませていただく。今後は県事業とも絡めて改善を図っていきたい。一つ一つ地道に何年かかるか分からないが取り組んでいきたい。
- ◆川越市は公道に吸い込み口を作って雨水の改善が図られた。ふじみ野市にとっても有効な方策なのではないか。
- ☆川越市の管とふじみ野市の管がこの地域は混在していると思うが、持ち帰りで調べさせていただく。

【民生委員への住基情報の開示について】

現在、近隣の富士見市はじめ西部地域のほとんどの自治体において65歳以上の方に対する住基情報を民生委員に提供しているとのこと。(中には、高齢者に限らずとも開示している自治体もあるとのこと)

しかし、本市の現状では、住基情報と実態とは整合性のない実例が多々存在するという背景を捉え、民生委員協議会としては、「民生委員は足を運び実態をしっかりと自分の目確かむこと」という方針を打ち出し、住基情報は一切開示してないということである。

開示した後のデメリットとして想定できることとしては、民生委員の管理不十分(紛失等)な状態により個人情報流出に繋がる恐れが否めないこと、並びにすべて開示した状況の中で何か事件が起きた時に、民生委員に対する責任が非常に重くなることを懸念しているとのこと。

ただし、どうしても情報が把握できない場合は、その都度個々に福祉課で対応し住基情報を開示しているとのこと。